組合運動者の心理を解せる者の言なり。擱まざるが爲に敗れたりと爲すは一般の見解なり。此世間一般の俗見てそは常に實際運動者の苦衷の存する所なり。當夜は遂に決せざりき。「兎に角明日の新聞の筆調を見よう。新聞を見るため午前九時上野驛一等待合室で三人が（鈴木麻生棚橋）會見しようと。而して大體に於て友愛會に有利なる筆調なりしため、上野驛會議は組合の名に頓著せず從業員總代の名にて會社と和するを決定したりしなり。

十五　罷業第一次の終熄

二十二日午前八時罷業職工總會の結果愈局面を收拾するに決し前記十名を代表として持田常務に會見せしめたり。常務は「團體を侵害するの意志なきは過去、現在、將來に於て然り。而して使用人の進退に關しては他の制肘を受くべき性質のものに非ず」と答へぬ。九日間の罷業は、にべもなき此一語に依り解決し明日にも復業すべしとなされたり。組合の爭議に對する十四日の組合宣言書の「所謂事一會社の事件に似たれども、問題は勞働者團結權の事にして勞働運動の根本にかゝる、其一般勞働運動者に及ぼす影響は蓋し大なるものあらん」と云へるを思ふ時、事情は如何にあるにせよ終局の全く蛇尾に結べるを訝しまざるはあらざりき。

組合は同日午後左記宣言書を發表したり。曰く

宣　言

會社は要求全部を承認し我等は茲に組合團結の自由を得たり而して我等の希望條件に對しても相當面目を立つる處ありたり故に今回の罷工は之を以て終了に決す。

不景氣の襲來に對し勞働者の團結權を侵害せんとする如き資本家は深く反省する處あるべきなり。

大正九年七月廿二日　　友愛會紡織勞働組合押上支部

罷業は茲に終熄し平和の陽光輝くと見えぬ。而して當日組合幹部改選の結果左の如し。

支部長、槇田源太郎　幹事長、前澤直平　理事、春日幹　永作博　長根龍　堀部金一郎　大平直美

庶務係、稻田佐平　岡田福松　堀江爲吉　清水德次郎　中野千里　檢査役、山田常次郎　林儀太郎

田中三吉　淺草千太郎　三浦庄作　高橋鐵藏　會計、秋山直次郎　折原伊三郎

曩に友愛會最高幹部が一般的世論を虞れたりと云へり。茲に罷業の第一次的終熄に際し其代表的なるものとして七月二十五日報知新聞の論說を掲げん。

無名の師

富士紡罷工問題

一、最近勃發せる富士瓦斯紡績罷工問題は其規模必ずしも大なりしと云ふにあらざるも、而も著しく世人の注目を惹きたるは、事業界好況時に瀕發せる同盟罷工が總て勞銀問題に關する爭議に過ぎざりしに、今回は全く之と異なり、團結權の確認を要求したる點に於て、勞働問題の根本に觸れたるかの如き外觀を有したれば也。然るに始め脫兎の如かりし友愛會は『名を捨てゝ實を採る』の美名に隱れて、遂に處女の如き從順なる態度に出でしは奇異の感なからずとせず、是余輩の敢て茲に一言せんと欲する所以なり。